

進捗状況の概要（1 ページ以内）

本事業の英語名称 Intensive Issue Based Education and Training Program から略称 II-BEAT（愛称ツービート）と名付け、学内で周知を図っている。以下本事業名を II-BEAT 事業と記していく。

1. 事業計画実施体制

全学的展開の前にモデルケースとなる国際教養学部における実施体制の整備を行い、あわせて全学的に質保証および教学 IR の実施体制を整える組織体制の整備を行った。

①国際教養学部の実施体制整備

プログラムを試行実施する国際教養学部では、カリキュラム編成、学修支援、相談体制そして学部内教学 IR の実施を企画総括する「II-BEAT 事業実施 WG」を設け、カリキュラム運営における実務的な運営を「拡大学務委員会」（常置の学務委員会＋メジャープロジェクト運営チーム）で行い、また学修支援、学部内教学 IR の運営においては「学修支援（SULA）・学務系事務組織」で実施体制を整え運営を行った。

②国際未来教育基幹の機能強化・高等教育センターの設置

全学的な教育体制をつかさどる国際未来教育基幹の機能強化を図り、基幹の中に新たに高等教育センターを新設し、全学的な教学 IR 運営および学修成果の可視化を行う事業を本格化させた。全学的な実施試行に当該年度はあてため、学修成果の可視化については GPS アカデミック及びトリプルダッシュボードの運用を開始した。

2. 達成目標と事業内容

①「三つの方針」を通じた学修目標の可視化

まず国際教養学部において本学の 3 つの方針を点検し、それに併せて 3 つのメジャー（グローバルスタディーズ、現代日本学、総合科学）それぞれの AP、CP、DP の点検を行い、学修による達成目標を明確にした。

②授業科目・教育課程の編成・実施

令和 4 年度の学部開講科目の統合集約を学部全体で検討し、3 年次第 1、4 タームへの集約的ターム編成を行った。あわせて第 2、3 および第 5、6 タームに集約したセルフデザインギャップターム（SDGT）で各教員が実験、野外実習などを行う特別プログラムを編成し、また学生がインターンシップ、留学など学生自身がカスタマイズする自己設計科目の運用を開始した。

③学修成果・教育成果の把握・可視化

令和 4 年度においては 3 年次および 4 年次生より、これまで開講されてきた授業科目に対する学生側からのフィードバックを得るため、カリキュラムに関わるアンケート調査を 2 回実施した。その上で今後学生にとっての学修成果をどう把握するのか、教育成果をどう捉えるかの検討を行った。また GPS アカデミックを試行し、トリプルダッシュボードの運用を開始した。

④学修成果や教育成果、教育の質に関する情報の公表

II-BEAT 事業を周知する Web サイトおよび、国際教養学部の課題先行型カリキュラムの紹介とそれに基づいた II-BEAT 事業に関するニュースレターを 2 回発行した。

3. 年度別の計画（当該年度のみ）

国際教養学部においてインテンシブ・イシュー教育プログラムを本格的に開始し、まず 3 メジャー各 1 つのモジュール科目群の編成を行い、授業科目の集約化を行った。併せて SDGT の運用を行った。

4. 留意事項への対応状況

学修成果の把握、可視化のあるべき姿について前掲 2③に記したような取り組みを進めた。

5. 全学的波及に向けた計画及び工程への対応状況

令和 4 年度で行った II-BEAT 事業で行う学修成果の可視化の方法やその成果分析のあり方について、全学 FD、公開シンポジウムを令和 5 年 2 月 16 日に行った。